

西尾市教育委員会事業（令和５年度事業）の評価所見

	課かい名	事業名	所見
1	教育庶務課	学校防犯対策施設整備事業	子供たちの教育環境の安心安全を確保することは大変重要であり、必要不可欠な取組みとして評価します。説明にもある通り、防犯装置は進化していきますが、装置を更新すべきか否かは、更新の費用に見合った効果が得られるかで判断すべきと考えます。現場でどのような防犯設備が求められているか、コミュニケーションを密に取りながら、ニーズに合致する事業となるよう、検討を続けていただきたいと思います。
2	学校教育課	小中学生イングリッシュキャンプ事業	イングリッシュキャンプ参加者やその保護者、イベント事業者からも良好な評価が得られており、今後も継続していただきたい有意義な事業であると評価します。さらに多くの参加をめざすとともに希望する子どもたちが参加できるよう事業の枠の拡大についても検討していただきたいと思います。また、事務局となる先生に過度な負担がかかることのないよう、予算をとって人員を増やすなど、持続可能性の高い事業とするために必要な見直しには、積極的に取り組んでいただきたいと思います。
3	生涯学習課	にしおチャレンジみらい塾事業	本事業は、市内の小中学生向けにスポーツや文化体験等の多種多様な教室を開催することで、大人や異年齢の児童生徒との交流機会の獲得に寄与することにより、児童生徒の心身ともに健やかな成長及び、未来ある子どもたちの「チャレンジ精神」を醸成するなど、大いに期待される事業であると考えます。 平成１４年に小中学生の土曜日の教育活動の一環として地域ボランティアの協力を得て始まった「サタデープラン」事業を継承したものであり、令和５年度に学校教育課から生涯学習課へ所管替えとなり、事業名も「にしおチャレンジみらい塾事業」と改められましたが、内容の見直しは緒についたばかりです。令和５年度には７０教室実施されおり、スポーツ系の３６教室は子供たちのスポーツ活動への入り口としての役割も担っているようですが、文化教室３４教室は、参加者数が極めて少人数でニーズに合致していない教室なども散見されるようです。

			スポーツ関係の教室は、今後小学校の部活動が廃止、また、中学校の部活動が地域移行されていく中で、需要が高まることも予想されますが、地域のクラブチーム等も近年活発になってきていることを考えると、本事業との役割分担について改めて検討が必要です。また、文化教室は、指導内容や講師への謝礼支払いが妥当であるかなどの視点での見直しが必要であると思われます。 長年継続してきている中での見直しは難しいことを言い訳とせず、所管替を良いきっかけと捉え、まず事業の目的・役割等を明確にし、ニーズに合致しない教室の廃止、時代に合った新たな教室の開設、指導内容の基準設定とともに、参加者募集においても、新事業としての魅力を伝えることに力を入れてください。
4	文化財課	第4回岩瀬弥助記念書物文化賞	現代日本においては、科学や医学など実学が重要視されている中で、軽視されがちな人文学系の研究にあえて焦点を当てて、この分野の学問を残していきたいという担当者の本賞に対する思いを知ることができました。書物文化の研究の顕彰という独自性の高い取り組みであり、受賞者からも評価の高い価値のある取り組みであると評価します。 5年に一度ということで、この価値の高い取り組みを一般の方に広く認知いただくための工夫も大切であると考えます。受賞者の講演イベント等を録画し、市役所ロビー等の公共スペースで市民の目に触れる機会を設けたり、市長・教育長・議長などにも岩瀬文庫の素晴らしさとともに本賞について市内外で紹介していただけるよう、本賞についての説明機会を設けるなど、更なる工夫を重ねて下さい。
5	図書館	電子図書館運営事業	現時点でできる技術・仕組みを積極的に取り入れ、利用者のニーズに対応している点は評価できます。また、導入だけでなく、利用者拡大のために積極的にPRに努めたり、限られた予算の中で人気の書籍の電子版を貸出可能にしたりするなど、継続して努力されていることも評価できます。 今後、出版物の中で電子書籍の割合が増えていく傾向にあると思いますが、引き続き間口を広げるとともに、デジタルに疎い方が取り残されないように配慮して進めていただきたいと思います。